公開版

令和２年８月１７日

地球規模保健課題解決推進のための研究事業
日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募に係る
事後評価コメント

研究開発課題名	Defined antigens for a diagnostic antigen detection test of visceral leishmaniasis
研究開発機関名	東京大学
研究開発代表者名	後藤 康之

指摘事項

● 評価できる点

内臓型リーシュマニア症の簡便な検査法を確立するために、尿検体を用いたイムノクロマト法の開発を目指し、患者検体を用いたアッセイで複数の原虫由来のペプチド断片が同定されている等、一定の研究成果は創出できたことは評価できる。

● 疑問点、改善すべき点

原虫由来タンパク質が尿中に存在することは明らかにしたものの、ターゲットとなる抗原が得られず、目標としていたイムノクロマト法による検査キットの作成などに関わる成果は全く得られなかった。今後も抗原抗体反応の特異性や抗原エピトープの確認など、系の確立までに時間がかかることが予想され、他種検体を用いるなど現状の打開策の検討が望まれる。

以上